

牒件濫妨事、任去年九月十七日綸旨、今年三月二十日當所牒止重恒之濫妨、宜令全所務者、仍牒送如件、以牒。

建武元年十二月二十七日

前筑後守藤原朝臣○小田  
貞知

〔南狩遺文〕尾張三郎、備中權守、千手、秋月已下凶徒、打出筑前國長尾村、濫妨所々由、依有其聞、所被成御教書也、早馳向彼所可被致軍忠於恩賞者、可申沙汰候、仍執達如件。

建武四月十四日

田口三郎殿

顯康判

〔内務省本官〕宗像文書六、藤原氏字伊申、亡父武藤孫太郎經頼○少遣領、筑前國土穴村地頭職安堵事、申狀副具如此所申無相違否、云當知行之段云可支申仁有無載起請之詞可被注申之狀依仰執達如件。

建武四年七月十六日

武藤但馬權守殿貞法少貳

〔佐藤元海九州記行〕一太宰府ノ町ハ、三四百軒モ有ベキ、草葺家バカリニテ見苦キ所ナリ、至テ邊鄙ノ地ニシテ、菅公ノ神社ノ無キ者ナラバ、絶テ人ノ來ルベキ里ニハ非ルベシ。

〔筑前國續風土記〕福岡城城内本丸の西石垣の下ひき、所は早良郡に屬し、東は那珂郡に屬す。福岡城屬す、城外は簗子町より西の方早良郡に屬し、東は那珂郡に屬す。

慶長五年、黒田長政公初て此國を領し給ひて、其年十二月上旬入國し、先名島の城に住給ふ。○中長政公未然を熟々考給ひ、此城地境かたよつて城下狭き故、亂世には宜しけれども、世治ては可久守地に非ずとて、其由を如水公と相議し、別に城郭に宣かるべき地を所々に見そなはし給ふ。○中略○中終に那珂郡警固村の境内、福岡と云所に於て、新に城地を經營して、山に依りて城を築き、堀をほり廻し、郭を構へ、要害堅くし給ふ。○中抑此邑の名を福岡と號せしは、長政公先祖は江州佐々木の一族たりしかば、長政公の曾祖父黒田左近大夫高政公、故ありて備前國邑久郡福岡の產